

滝脇 憲

人間関係作り 自立へ一歩

私たち「ふるさと会」は、困っている人たちに住まいを提供し、生活の支援をしている。現在の利用者は1168人で、常勤・非常勤合わせて289人の職員のうち、20歳代から80歳代までの115人は利用者でもある。人に支えられながら、人を支える仕事をしているのだ。

30歳代の男性・Aさんは、高齢者や、病気や障害のある人の共同住まいで働き始めた。飲食店勤務だったが、職場の人間関係に苦しみ、病気になって失職した。生活支援の仕事は初めてで、「ちょっとしたことでも感謝されてうれしい」と笑う。そ

して、無理な要求をされても、頭ごなしに否定しないようにしているという。自分も病気だから相手の気持ちがわかる。誰だって好きで病気になるわけじゃない」

Aさんは、ふるさと会のホームを利用することで、他の利用者や職員と出会った。職員として働いていない時もお祭りを手伝うなどコミュニティを支える役割を引き受け、人間関係を作ってきた。

一般に、福祉制度は支援される側に「自立」を求める。だが、自助の力を発揮するには、親密な他者や仲間が必要ではないか。人間関係作りを支援することが、自立支援の第一歩だろう。そのためには、何をやるか(Doing)で人を評価する前に、多様な存在(Being)として互いを受け入れ、承認することも重要だ。仲間を受け入れ、受け入れられたAさんの言葉は、誇らしそうだった。